

4-2			
主題	ノロウイルス感染の予防対策に向けた利用者、職員の意識改革		
副題	利用者の不安を軽減するために		
キーワード1	意識改革	キーワード2	研究期間
			8ヶ月

法人名	社会福祉法人 浴風会		
事業所名	軽費老人ホームA型 浴風会松風園		
発表者	野々村 隆幸 (ののむら たかゆき)	アドバイザー	なし
共同研究者：松浦 孝枝 (まつうら たかえ)			

電話	03-3334-5062	FAX	03-3334-5061
----	--------------	-----	--------------

今回発表の事業所やサービスの紹介	昭和37年度に定員45名、昭和39年度55名の合わせて100名の軽費老人ホームとして創立しました。その後、昭和30年に設立した有料老人ホーム黒光園(25名)を昭和54年1月に吸収合併し125名、昭和59年4月全面的増改築により200名の施設として運営している施設です。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

平成27年6月1日現在で、約4割の方が要介護認定を受けており、何かしらの介護保険サービスを受けて生活されている。

平成26年3月に、利用者25名、職員4名が次々と感染性胃腸炎症状を発症。その為、行事、クラブ活動、ヘルパー利用を全て中止し、入浴はシャワー浴のみ、また食事が終わり次第居室に戻る等協力して頂いた。結果、利用者の日常生活に多くの支障を来し強い不安とストレスがかかった。利用者からの、「いつになったら居室から出られるのか」、「お風呂に入りたい」、「病院には行けないのか」等多くの不満の声が上がった。また、理解力、認知力低下により感染症対応中であっても居室から出歩いてしまったり、共同の洗濯機を使用してしまう方もいた為、感染されていない方からは、「次は私がノロウイルスに感染するかもしれない」との不安な声が聞こえた。そのような状況の中、私たちは利用者

にノロウイルス感染防止の為にはどうすればよいのか、安心して、安全に日々過ごして頂くには何をすれば良いのかを考え、感染症予防対策に取り組み、今回の発表テーマとした。

《2. 研究の目的ならびに仮説》

1. 利用者が現在何を望んでいるか、不安、不満に感じている事は何か等を把握する事で、的確な対応を行うことが出来る。
2. 利用者がノロウイルスとはどのようなものを理解することにより、予防につながる不安やストレスを軽減する。
3. 利用者、職員が一体となり手洗い、うがいを慣行することにより感染予防に繋がる。
4. 広範囲に消毒する事で感染予防に繋がる。
5. 感染対応者、非感染対応者からの訴えに迅速かつ的確に対応出来る事により不安な思いを軽減する事が出来る。

《3. 具体的な取り組みの内容》

1. 利用者に向けて感染症時の対応アンケートを行う。

※集団発生した時に、どのような事が一番辛かったか、不安に感じたか等を聞く

2. ノロウイルスの注意事項のプリントの配布

※利用者懇談会で看護師が説明

A ノロウイルス感染時の対応マニュアル

B 胃腸炎症状時の対応マニュアル

C 感染症解除後の生活

3.A 各出入口に消毒液を設置

B 各出入口に手洗い、うがい、消毒励行の貼り紙を貼る

C 石鹼液、使い捨てペーパータオル使用

D 食堂前、手洗い場と安否確認ボードの動線確保

4. 消毒方法の見直し

消毒を以前は手拭きでしていたが噴霧式スパー次亜水に変更（1日2回10月から4月頃まで消毒の実施）共用部、エレベーター、階段、廊下に全面に散布
エレベーター塗装工事に合わせ、感染症対策に役立つ抗菌性能の塗料を使用

5 感染者（ノロウイルス）対応一覧表を作成
感染対応者に、食事摂取量、吐き気、嘔吐、下痢、その他の症状を聞く

《4. 取り組みの結果》

具体的な成果としては、職員が1日2回園内の消毒を行うが、その際に利用者の方から、「もう感染症の時期ね」「いつも消毒してくれてありがとうね」等の言葉を多く頂いた。利用者の中で、感染症の時期だから気を付けなくてはいけない、手洗い・うがいをしっかりしなくてはいけないという意識が高められたと考えられる。

食事をする際、手洗い場と安否確認ボードの動線を確保したことで、利用者が手洗いをしてから食事をする習慣が出来た。利用者、職員全体が一体となってノロウイルス感染防止に努めたことで、園全体で感染予防の意識が高まり、感染予防に繋がった。

また、平成27年5月に利用者に向けてアンケートを行った。アンケート結果としては、平成26年3月と比べて、現在不安が軽減された方は約8割に達した。利用者が日々安心して過ごしていると思われる。

《5. 考察、まとめ》

ノロウイルスに絶対に感染しない事は不可能であり、不安が消える事は難しい。

しかし、今回利用者、職員が一体となってノロウイルス感染防止に努めたことで、不安が軽減された利用者が約8割に達したことは、予想以上の結果であった。

今後もノロウイルス感染防止の為に、ハード面、ソフト面で最良の方法を探していき、園全体で取り組んで行きたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究を行うにあたり、アンケート内容を本研究以外で使用しない事、回答は任意である事、回答は匿名性を保ち、その回答によって不利益を被ることはない事を書面にて説明し、回答を持って同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

著者 西尾 治（2013年11月20日・第1刷発行） 施設管理者のためのノロウイルス対策 出版 幸書房

《8. 提案と発信》

当施設は自立施設ではあるが、利用者の約4割の方が要介護認定を受けているのが現状である。今後も要介護者数が増えていく場合を考えると、今回取り組んだ事だけではなく、もっと広い視野で考えていくことが必要になってくるとと思われる。